

伊丹 万作 (1900~1946)



映画監督。松山市出身。本名は池内義豊。愛媛県立松山中学校(現、県立松山東高等学校)在学中、学生の間で愛読されていた雑誌『楽天』の同人となり、後の映画監督の伊藤大輔や俳人の中村草田男らと交遊を深めた。卒業後、叔父を頼って上京し、初めは画家を目指して洋画を勉強しながら挿絵などを描いていた。しかし次第に生活が苦しくなり、親友の大輔を頼って京都に行き、大輔の勧めでシナリオを書き始めた。昭和3(1928)年、片岡千恵蔵プロダクションに助監督兼脚本家として入社。そして同年6月、「天下太平記」で脚本を担当した後、同年11月、自身がシナリオを手掛けた「仇討流転」で監督としてデビューした。その後、約10年間で22本の映画を撮ったが、その全てが万作自身の脚本によるもので、代表作としては、風刺が鋭く効いた傑作喜劇「国士無双」や、志賀直哉の短編を脚色・演出した作

品「赤西蠣太」などがある。

万作の演出には、その当時の時代劇には無かった柔軟で独創的な風刺が込められており、映画界随一の「知性派」として大監督の一人に数えられた。

略歴

- | | |
|------------------|--|
| 明治33(1900)年1月2日 | 松山市湊町に生まれる。 |
| 大正6(1917)年3月 | 愛媛県立松山中学校を卒業。中学時代より、伊藤大輔らと親交を深める。 |
| 大正7(1918)年 | 雑誌『少年世界』に挿絵類を描き始める。 |
| 大正9(1920)年 | 池内愚美の号で、雑誌の挿絵類を描く。
俳優学校に進んだ大輔と同居 |
| 昭和2(1927)年 | 大輔を頼って京都に行き、「花火」等のシナリオを書く。 |
| 昭和3(1928)年 | 片岡千恵蔵プロダクションに助監督兼脚本家として入社
ペンネームを伊丹万作とする。自身執筆の初監督作品「仇討流転」封切り |
| 昭和7(1932)年 | 作品「国士無双」封切り |
| 昭和9(1934)年5月 | 大輔、尾崎純と共同の監督作品「忠臣蔵刃傷篇復讐篇」封切り
新興キネマにトーキー専門監督として入社 |
| 昭和10(1935)年 | 自己のトーキー第1作「忠次売出す」封切り |
| 昭和11(1936)年 | 監督作品「赤西蠣太」封切り |
| 昭和12(1937)年 | 評論感想集『影画雑記』を刊行 |
| 昭和13(1938)年 | 胸を病み、病気療養の生活に入る。 |
| 昭和21(1946)年9月21日 | 47歳で永眠。墓所は砥部町麻生の理正院 |

(肖像画：愛媛県立松山東高等学校蔵)

〈関連図書〉

- ・伊丹万作『静臥後記』 大雅堂 1946年
- ・伊丹万作『伊丹万作全集』(全3巻) 筑摩書房 1961年
- ・伊丹万作『伊丹万作エッセイ集』 筑摩書房 1971年
- ・富士田元彦『映画作家 伊丹万作』 筑摩書房 1985年
- ・米田義一『伊丹万作』 武蔵野書房 1985年
- ・菅雅男『伊丹万作試論』 青龍社 1991年
- ・町立久万美術館『万作と草田男-「楽天」の絆』 町立久万美術館 2008年

〈主な収蔵資料〉…(P229, 153)

〈ゆかりのある場所〉…(P317, 216)

〈関連施設〉…伊丹十三記念館

〒790-0932 愛媛県松山市東石井1丁目6番10号 TEL: 089-969-1313